

日中戦争史研究会報告「張作霖・張学良政権の対ソ観と辺境植民政策」大野 太幹
(2010年5月22日 於：愛知大学車道校舎)

◎課題の設定

内戦・災害などにより華北地域から大量の難民が東北地域に流入

1927年～1928年直魯（山東省・河北省）難民

1929年豫（河南省）難民

開墾・植民のための難民受け入れ状況

→張作霖・張学良政権期における対ソ観の変遷、辺境防衛意識の相違を比較

中国東北地域＝清朝中期以来、華北からの漢族移住地

荒武達朗[2008]—山東からの出稼ぎ移民について詳細に考察

“二段階移住論”

南満への移住・開発→ロシアの極東開拓⇒北満への移住・開発

しかし、開発されたのは北満では松花江・嫩江に挟まれた地域のみ

（松嫩平原）

松花江下流域・東部内モンゴル地域などは漢族の移住は進まず

→政策的移民、戦略的移民についての考察が必要[大野 2009]

I. 前史—“移民実辺政策”

清朝末期—“移民実辺政策”

東北・モンゴル・新疆・西南地域の辺境を移民により開発し、防衛する

東北地域では義和団事件を契機に 1902 年から本格化[林 2001, 第三章]

⇒清朝滅亡後も継続 (ex. 墾植協会)

山東墾植分会副会長・王志勳（1912年6月9日）

「去年（1911年—引用者）、山東移民の件につき、傅金壽・陳幹らと前巡撫・孫慕総督に対し、東三省に赴いて荒地を調査する旨上申した。そして、趙（爾巽—引用者）総督と熊墾局総辦の許可を承り、三省（東三省—引用者）諮議局議長から歓迎を受けた。その後、手分けして調査を行い、場所を決定することを協議し、傅（金壽—引用者）は洮南の蒙地、陳（幹—引用者）は臨江六屯、（王志—引用者）勳は依蘭龍爪溝を指定し、いずれも均しく

承認され、山東に戻った」¹（下線は大野による、以下同）。

洮南の蒙地＝洮属七県（洮南・洮安・鎮東・突泉・瞻榆・安広・開通）

臨江六屯＝臨江府（後の同江県・富錦県一帯）

依蘭龍爪溝＝依蘭府同江県龍爪溝

山東墾植分会（1912年11月23日）

「本分会は吉林東北辺地を經營して開墾するため、まず臨江府城（同江県一引用者）東一帯を移民地として選定し、今秋人員を派遣して該地に村落と家屋を建築し、橋梁や道路を改修するなど、すでに緒に就いている。

ただ、荒地を開墾することは固より貧民に生計を立てさせることであり、また国防のために安全を図ることでもある。肥沃な土地は当然拓殖を始めなければならず、肥沃で強大な隣国と接している土地は事が起らぬうちに管理して侵略を防がなければならない。（中略）

城の東側は松花江に沿って数百里あり、東の端は綏遠州に至る。すべて（綏遠州一引用者） 斥に属するが荒れ果てている。そして、（松花江一引用者）南岸は我が方に属し、北岸はロシアである。（ロシアは一引用者）今日まで非道な行為は行っていないが、ロシアの侵略は必ずまた行われるだろう」²。

吉林墾植分会（1913年7月7日）

「本分会は成立以来、現在の内憂、つまり人が多すぎること、そして外患、すなわち辺境に人が少ないことのため、何度か会議を開き、議論してその方法を議定した。かつて吉林省東北路の松花江下流部、およびウスリー江一帯を移民地とし、まず移墾草案を編纂し、続いて人員を派遣して実地調査に赴かせ、村鎮区域と屯墾地域内のすべての産物・風俗・国境の沿革など、実地の要点に関わりのあるものを分析して二種類の報告書を編纂した」³。

⇒墾植協会山東・吉林分会の選定した移民地に基づき、1914年6月には山東都督と吉林都督の合意により、実際に「依蘭府龍爪溝」において移民政策が実施された⁴。

→開墾のための牛馬の不足・牛馬の害虫被害、匪賊の襲撃、水害などにより失敗⁵。

¹ 山東周都督電報（吉林省档案館（J101-1-188）「吉林行省與山東省行政公署等地關於移民開荒等有關事宜的來往文電」所収）。

² 山東都督局電報（吉林省档案館（J101-1-188）「吉林行省與山東省行政公署等地關於移民開荒等有關事宜的來往文電」所収）。

³ 吉林省档案館（J101-2-1243）「吉林省墾植分会為咨吉省東北路沿松花江下游為移民点派員實地調查村鎮及屯墾地址等編列報告咨文」。

⁴ 楊夢齡編『依蘭県報告書』吉林印書館1914年、「荒務」P23～24。

⁵ 杉本吉五郎『松花江沿岸地方經濟事情』滿鉄總務部調査課1921年、P530～531。

II. 張作霖政権期—1927～1928年の直魯難民

①張作霖政権期の奉ソ関係

カラハン宣言（1919年）—中ソ国交回復交渉

中国・ソ連間の諸問題—在中国ロシア正教会財産の引き渡し

張作霖配下の張宗昌軍による白系ロシア人部隊徴用

モンゴル人民共和国におけるソ連の活動

中東鉄道経営権

松花江航行権問題

⇒1924年から同協定に基づき、北京政府・奉天政府とソ連との間で協議[唐 2007]

ソ連と張作霖政権の間で、中東鉄道を共同管理とすることが決定される

張作霖＝反共・反ソ連

内戦におけるソ連の馮玉祥支援への反感・赤化宣伝活動への不信感

1926年1月、イワノフ事件—中東鉄道ソ連側局長・イワノフが馮玉祥支援のため、

中東鉄道による奉天軍移送を拒否

1927年3月11日、ハルビンのソ連通商代表部事務所を搜索

同年4月6日、駐北京ソ連大使館搜索

→ソ連との協議立ち消え、しかし張作霖の反ソ意識は辺境防衛には向かわず

②吉林省による直魯難民受け入れ

張作霖自身は直魯難民の受け入れに消極的—反張作霖勢力の流入、不安定要因（ex.大刀会）

吉林省政府—1927年3月「難民救済辦法」を公布、難民受け入れを表明

長春に難民指導所、ハルビンに難民収容所を設置

中東鉄道・吉長鉄道（長春—吉林間）などにより組織的に難民を移送

大連同郷会・旅吉山東同郷会など山東同郷団体も協力

大連山東同郷会（1927年3月）→臨時宿泊所設置、満鉄に乗車料金割引を要請⁶

旅吉山東同郷会会長・孫維翰（1927年4月13日）

「本月十日、同郷者を招集して臨時會議を開き、広く資金を集め鉄道駅附近に難民指導所

⁶ 『満洲報』1927年3月26日「請對難民減免車價 已得滿鉄之許可 山東同郷会尚擬設臨時宿所」。

を設立することを表決した」⁷。

→その結果、松花江下流域に多くの難民が定着 ※表①

吉林省長・張作相（1927年3月30日）

「直魯難民で関内および沿海から長春、ハルビンに来る者は五、六万人に達している。報告によれば、ソビエト・ロシアは人員を派遣し、密かに（難民を一引用者）誘い、赤化教育を施し、軍隊に編入して、庫倫（ウランバートル一引用者）から本国へ送還し党の軍隊に編成しようとしている。あるいは、軍や警察機関を派遣して詳細な宣伝を行っている。それら難民は多くが飢えと寒さに迫られているのであり、もし的確に慰撫すれば、心から願って裏切るようなことはないだろう。いま、枢要な地方において難民の来歴および目的地を調査し、それぞれ興安嶺以南、綏芬（河一引用者）以西に行く者は通行を許可し、そこを越える者は一律通行を禁止するよう（各県知事に一引用者）命じる」⁸。

→辺境防衛当事者としての危機感

吉林省農会長・謝雨生（1928年2月）

「吉林省は土地が広大で、未開墾地は極めて多く、そのうえ境界は日本（朝鮮一引用者）およびロシアと接しており、外国人は常に侵略を企んでいる。現在、直魯難民は日々踵を接して北上しており、移民によって辺境を満たす策を省議会に請願する。（中略）

ひそかに思うに、国家の富強を図るにも、内政が整わなければ日々軍備を拡大しても活力は必ず失われる。内政の変事は時勢を考慮する必要がある。原因を見極め適切に措置し、然る後に初めて富強を語るができる。

査するに、我が吉林省は辺境に位置し、土地は広大で、東南は日鮮に連なり、東北はソ連に接している。彼等は日夜侵略を企図しており、もし早急に対策を講じなければ、無窮の憂いとなるだろう」⁹。

→辺境防衛を重視しない張作霖政権への不信感

③奉天省における難民受け入れ状況

奉天省農工総長・劉尚清（1927年8月20日）

「東北は未墾の地が最も多く、度々人を募集して開墾を行ったが、地方が不穏であるため労働力が不足し、未墾地は至る所で放棄される結果となっている。（中略）最近、直魯各省の人民が、老人を支え子供の手を引き東北へ来て、開墾に従事しようとする者が数十万に

⁷ 「旅吉山東同郷会呈為救済魯省来吉難民擬具辦法」1927年4月13日（吉林省档案館（J101-16-1056）「吉林省長公署為定救済難民辦法的訓令」所収）。

⁸ 吉林省長電吉林実業庁ほか（吉林省档案館（J101-16-1056）「吉林省長公署為定救済難民辦法的訓令」所収）。

⁹ 『満洲報』1928年2月2日「吉省農会移民実辺計画 已向省議会提出請願書」。

達しているという。実際、天然の開墾には良い機会である」¹⁰。

奉天省一遼河以東（遼東）・遼河以西（遼西）にはほとんど未開墾地なし

新たに開放された東部内モンゴルの蒙地のみ

→しかし、東部内モンゴル地域（洮属七県）にはほとんど定着せず ※表②

鎮東県知事・陳占甲

「洮属各地は農工民を必要としているが、方法を講じて直魯難民を招致したにも関わらず、来た者は極めて少なかった。（中略）

その原因のひとつは、直魯人民がただ吉林・黒龍江のみを受け入れ先として知っており、洮属各地も開墾できるということを知らなかったこと、もうひとつは僻地にあつて遠く、費用がかさむため、困難を感じ足が向かなかつたことである」¹¹。

→奉天省の移民招致のための施策が不十分・同郷団体の協力なし

Ⅲ. 張学良政権期—1929年以降の河南（豫）難民

①張学良政権期の奉ソ関係

張学良＝反共、反ソ

張作霖政権に比べ、辺境防衛の意識が高い

※1928年10月に興安屯墾区（黒龍江省索倫・遼寧省洮安一帯）を設置

→開墾・入植を計画[康 2000]

鄒作華（奉天軍砲兵団長）・

「張司令官（張学良一引用者）は（中略）我が邊陲の地を固めて、地の利を振興せんことを思ひ、爰に予（鄒作華）に興安屯墾の管理を命じた。興安区は遼寧、熱河の北境に在り、東吉林、黒龍江と連り、北は西伯利亞と隣接し、西は外蒙及察哈爾と界し、地四衝に位し、八方を雄視し、自ら国防に重要な關係を有する。（中略）

茲に寒月洮南に赴き、更に霜を衝いて北征し、荊棘を斬り、萊蕪を開き、迤々千里の間に亘つて親く踏査を試みることによって始めて俄人が蒙族を煽動して独立を計り、日人が五鉄道を指定して洮索を囊括せんとするの实情を知つた」¹²。

¹⁰ 奉天農工総長劉尚清致奉天省長宛（遼寧省档案馆（JC10-888）「各県未墾荒地及收留新来直魯農民数目表」所収）。

¹¹ 『満洲報』1928年4月22日「鎮東請撥難民 往洮属各県開墾」。

¹² 興安屯墾区公署（栗本豊訳）『興安屯墾区事情』満鉄庶務部調査課、1929年、P2。

中東鉄道紛争の際、張学良の危機感が現実となる

※中東鉄道紛争—中東鉄道の経営権完全掌握を企図

1929年7月10日、張学良政権が中東鉄道経営権を回収

→武力衝突に発展 1929年10～11月、同江・密山・満洲里で会戦

⇒張学良軍大敗[劉 2009]

張学良 1929年7月23日

「ロシアは我が吉黒（吉林省・黒龍江省—引用者）辺境に沿って兵力を増加させ、様子を窺っている。密偵の報告によれば、ロシアは蒙古王公および青年党と連絡を取り、露蒙混合騎兵を組織し、手分けして襲撃し、綏（遠省—引用者）、熱（河省—引用者）を制圧する計画があるという。辺境各隊に厳格に防備し、詳細に報告させるほか、察（チャハル—引用者）、綏（遠—引用者）方面は特に注意しなければならない」¹³。

→1929年3月以降、興安屯墾区および洮属七県への河南難民の入植を計画

同郷団体・旅平河南賑災会の協力

旅平河南賑災会代表・于廷鑑（1929年2月28日）

「災害により被害を受けた、耕作能力のある者を登録して定期輸送に資する。ただ、河南の民が（山海—引用者）関を出るのはこれが最初であり、直魯の農民が来るとき、素より親類があり、受け入れる者がいるのとは状況が異なる。（中略）

各県知事、農会会長、村長等に命じて、まず各村で確実に受け入れられる戸数、人数を調査することを要請する」¹⁴。

→遼寧省政府は旅平河南賑災会の要請に応じ、各県に難民受入数を報告させる¹⁵

遼寧省政府—直魯難民のときと異なり、積極的に河南難民の移送を実行

「近日、難民は集団（批）で東来しており、各集団は少なくとも五、六百（人—引用者）、多ければ一、二千もある。大半は打虎山駅から洮昂線に乗り換えて北上し、生存を謀っている。すでに（1929年—引用者）六月において打虎山駅に（難民救済のための—引用者）分所を設立し、招待と移送に役立てている」¹⁶。

¹³ 「張学良致蒋介石電」（畢万聞編『張学良文集』第1巻、新華出版社、1992年、P208）。

¹⁴ 旅平河南賑災会代表于廷鑑致遼寧省長「旅平河南賑災会代表于廷鑑呈查各県容納墾荒戸数人数」（遼寧省档案馆（JC10-887）「各県査報安置河南災民数量巻」所収）。

¹⁵ 遼寧省政府民政庁庁長陳文学致遼寧省政府 1929年5月27日「呈為奉令飭查各県容納災民数量一案情形報請核轉由」（遼寧省档案馆（JC10-887）「各県査報安置河南災民数量巻」所収）。

¹⁶ 遼寧救済直魯難民総事務所致遼寧省政府 1929年7月10日（遼寧省档案馆（JC10-887）「各県査報安置河南災民数量巻」所収）。

⇒その結果、1929年10月時点で46集団・男女3万5258人の入植に成功¹⁷

IV. 結論

張作霖政権と張学良政権—反ソ・反共で一致

しかし、張作霖政権は辺境防衛よりも関内進出を重視

一方、張学良政権は対ソ辺境防衛を重視

張作霖・張学良両政権期の辺境植民・開発の過程は、対ソ辺境防衛の困難さを示す
張学良政権期に組織的に行われる→満洲事変により頓挫

日本の対ソ辺境防衛は、張作霖・張学良政権の施策から教訓を得ていたか？

Ex. 満洲国期の華北移民入境制限 1933年外国人入国取締規則

1935年外国労働者取締規則[児嶋俊郎 2002]

満洲開拓移民・武装移民による辺境開発・防衛

〈参考文献〉

荒武達朗 2008. 『近代満洲の開発と移民』汲古書院.

大野太幹 2009. 「漢族東北移民研究の到達点—荒武達朗著『近代満洲の開発と移民』書評を中心の一」(『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』第21号).

康越 2000. 「張学良政権下の「興安屯墾区」開発事業」(『EX ORIENTE』Vol.3).

児嶋俊郎 2002. 「満洲国の労働統制政策」(松村高夫ほか編『満鉄労働史の研究』日本経済評論社).

唐啓華 2007. 「1924—1927年中俄会議研究」(『近代史研究』2007年第4期).

林士鉉 2001. 『清季東北移民実辺政策之研究』国立政治大学歴史学系(台湾).

劉顯忠 2009. 「中東路事件研究中的几个問題」(『歴史研究』2009年第6期).

¹⁷ 檢察墾民臨時辦公處呈遼寧省政府(遼寧省檔案館(JC10-890)「李時燦電為報為運災民赴江請查照放行等江省安置難民狀況」所収)。

表①：吉林省各県難民移住者数（1928年1月～4月）

道別	県別	1月	2月	3月	4月	計
吉長道 16,253人	吉林省	132	131	323	216	802
	長春県	248	278	528	296	1,350
	伊通県	14	31	260	157	462
	濛江県	10	17	184	260	471
	農安県	20	126	159	137	442
	長嶺県	15	127	746	583	1,471
	舒蘭県	33	138	596	547	1,314
	樺甸県	783	1,028	2,887	1,877	6,575
	盤石県	49	127	284	238	698
	雙陽県	94	67	302	178	641
	徳恵県	31	127	346	218	722
乾安県	98	139	572	496	1,305	
濱江道 17,094	濱江県	697	1,572	3,845	2,994	9,108
	扶餘県	24	130	253	129	536
	雙城県	32	125	489	264	910
	賓県	34	200	289	553	1,076
	五常県	21	220	976	437	1,654
	榆樹県	13	135	420	218	786
	同賓県	24	120	255	141	540
	阿城県	57	139	476	472	1,144
	珠河県	19	117	263	214	613
葦河県	34	122	296	275	727	
延吉道 15,759人	延吉県	263	250	4,578	3,329	8,420
	寧安県	21	340	885	748	1,994
	汪清県	22	138	417	215	792
	琿春県	17	112	357	320	806
	敦化県	455	216	844	486	2,001
	額穆県	54	134	190	175	553
	和龍県	36	249	551	357	1,193
依蘭道 338,215人	依蘭県	334	3,906	6,724	6,379	17,343
	同江県	284	1,294	14,735	15,972	32,285
	穆稜県	573	1,697	2,592	3,084	7,946
	密山県	187	2,637	13,574	27,961	44,359
	富錦県	1,237	1,193	14,807	13,024	30,261
	樺川県	747	1,128	15,487	15,862	33,224
	寶清県	721	1,300	12,537	17,648	32,206
	方正県	886	3,125	15,884	20,517	40,412
	虎林県	129	2,028	15,946	17,422	35,525
	饒河県	336	3,937	9,628	14,397	28,298
	勃利県	37	2,282	4,904	7,842	15,065
綏遠県	0	1,872	5,604	13,815	21,291	
	計	8,821	33,054	154,993	190,453	387,321

出典：川越茂吉林総領事「吉林省移住直魯難民ニ関スル件」1928年6月28日，外務大臣田中義一宛

（外務省史料「支那ニ於ケル拓植関係雑纂 吉林総領事館」アジア歴史資料センターB02031671400・286～287）

表②：各県未開墾地および受け入れ難民数

県別	未開墾地面積	定着した直魯難民数
昌図	無	無
懷徳	無	無
梨樹	無	無
彰武	無	無
法庫	無	無
鎮東	240,000 垧	無
双山	40,500 垧	無
開通	263,720 垧	70 人
洮安	10,000 垧	無
安広	80,000 垧	無
洮南	46,350 垧	100 人
通遼	45,000 垧	無
瞻榆	52,892 垧	106 人
遼源	74,232 垧	無
康平	19,132 垧 4 畝	無
突泉	203,952 垧	無
計	1,075,778 垧 4 畝	276 人

(出典) 奉天洮昌道尹・戦滌塵致奉天省長・劉尚清宛「各県未墾荒地及新収直魯農民数目分別列表」1928年3月10日(遼寧省档案馆「奉天省長公署档案」(JC10-888)「各県未墾荒地及収留新来直魯農民数目表」所収)。

(注) 垧=1ヘクタール、畝=約6,6アール。